

press release

COLLECTION EXHIBITION



秋の所蔵作品展

名品の森 I

Forest of Masterpiece I

2021 ~~9/16 Thu~~ 10/1 Fri(予定) ▶ 12/24 Fri

〔開館時間〕9:00～17:00 (9月26日までの金曜日は20:00、9月27日以降の金曜日は19:00まで開館) ※入場は閉館の30分前まで

〔休館日〕月曜日 ※特別展会期中・祝日・振替休日を除く ※11月8日は、展示替のため所蔵作品展は閉室

〔入館料〕一般510(410)円／大学生310(250)円 ※()内は20名以上の団体

〔縮景園共通券〕一般610円／大学生350円 ※特別展は別料金

※高校生以下無料 ※当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。

※障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階総合受付でお申し出ください)。

 広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

2階展示室

<https://www.hpam.jp/>

※本来は令和3年9月16日(木)開幕予定のところ、広島県における「緊急事態宣言」の延長に伴い、9月30日(木)まで臨時休館となったため、10月1日(金)開幕の予定となっています。

【概要】

秋の所蔵作品展 名品の森 I

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。当館は、収集重点方針として掲げる「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を中心に、開館以来、多くの方々の御協力を得てコレクションの充実を図り、現在、5,000点を超えるコレクションを所蔵しています。

当館は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨春に続いて今年も5月10日から6月20日まで、また、8月7日から9月30日まで二度の臨時休館となりましたが、この秋、みなさんに美術館を楽しんでいただけることをうれしく思います。

さて、「名品の森 I」と題する今期の所蔵作品展では、展示室ごとにテーマを設定して、構成する当館コレクションの作品群を森に見立てて展示します。「つながるかたち」では西洋の彫刻と日本の工芸の共鳴を、「生誕130年 マックス・エルンスト 自然の発見」では徳島県立近代美術館とふくやま美術館から拝借した作品とともにエルンストの世界を、「没後110年 小林千古」ではその画業と生きざまを、「生誕120年 丸木位里・没後30年 船田玉樹」では切磋琢磨した二人の日本画家を対比を、「中央アジアの刺繍と衣装 #乙嫁たちの手仕事2」では昨年について豊かなシルクロードの工芸世界を、それぞれ紹介します。あわせて、新たにミニガイド『サルバドール・ダリ』、『丸木位里』、マンガを交えて当館を楽しく案内する『ジュニア鑑賞ガイドブック』を作成しましたので是非手に取って御覧ください。

会期中には、ギャラリートークや対話型鑑賞会、インスタグラムのライブ配信などの関連イベントも開催して、さまざまな楽しみ方を提案します。

当館は新型コロナウイルス感染拡大防止策を施して皆様をお迎えますので、御理解と御協力をお願いいたします。御来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心と癒やされる展示をめざし、今後も努力を重ねてまいります。

【彫刻展示室】つながるかたち ～ 西洋の彫刻と日本の陶芸

近現代の彫刻家や陶芸家は、ときに伝統や異文化などを自作に取り入れつつ、革新的な作品を生み出してきました。例えば現代陶芸においては、八木一夫が古陶磁にも造詣を示しつつ、パブロ・ピカソやマックス・エルンストら西洋の芸術家からも着想を得ながら、新しい焼き物を追求しました。とりわけ、八木が提唱した「オブジェ焼き」のように、器としての機能を持たない前衛的な作品は、一見すると、彫刻との違いに戸惑われるかもしれません。しかし、八木のように「土」という素材を探求し続けるあり方は、陶芸家ならではの仕事だといえるでしょう。

一方、20世紀を代表する彫刻家イサム・ノグチも、洋の東西という垣根を越え、独創的な作品を生み出しました。ニューヨークやパリで彫刻の基礎を学び、第二次世界大戦後には、縄文土器や土偶を研究するだけでなく、北大路魯山人や金重陶陽ら日本人の陶芸作家らに直接学んでいます。現代的な造形に伝統的な表現を取り入れたノグチの仕事について、八木は「やられた」と評し、後にふたりは交友を結びます。

この展示室では、イサム・ノグチをはじめとする西洋の彫刻作家と、八木一夫ら、ノグチと交友・影響関係があった陶芸家たちの作品を併せて紹介します。彫刻と工芸という異なる分野ではありますが、どこか共通性を感じさせる各々の表現をお楽しみください。



八木一夫《ブラックエコー》1978年

【第1展示室】小特集 マックス・エルンストー自然の発見

当館では、1920～30年代(両大戦間)の美術作品を重点的に収集しています。この時期を代表する二つの美術運動が、ダダとシュルレアリスムです。その両方に参加したドイツ出身の芸術家、マックス・エルンストは、当館が2組の版画集及び2点の彫刻作品を所蔵する、重要な作家の一人。生誕130年の節目に当たる本年、改めて、彼の芸術に光を当てましょう。

版画集《流行に栄あれ、芸術よ墜ちろ》は、イタリアの画家ジョルジョ・デ・キリコの影響が色濃い、エルンストのダダ期を代表する作品です。ふくやま美術館から出品いただいた、デ・キリコの作風をよく示す貴重な油彩画と併せて見ていただくことで、その影響を感じ取ることができます。

版画集《博物誌》では、凸凹のある物の上に紙を置き、鉛筆などで模様を擦り出すフロッターージュの技法により、画家の目が捉えた自然の断片が、壮大な世界観のもとで提示されています。「博物誌」とは元来、自然界のあらゆる事物、事象を網羅的に記録し、編纂した書物を意味します。ここでは、他の作品にも繰り返し現れる、鳥や、天体が浮かぶ風景といった重要ないくつかのモチーフに着目し、彼が見た自然の姿がいかなるものであったかを読み解きます。

さらに、徳島県立近代美術館から出品いただいた、鳥をモチーフとした油彩画の名品《鳩のように》、版画集《兵士のパレード》のうち3点と、当館が所蔵する2点の彫刻作品を加えた、全26点のエルンスト作品により、彼の世界を堪能ください。

【第2展示室】没後110年 小林千古ーアメリカで出会った夢

こばやしせん こ
小林千古という名前をご存じでしょうか。1870(明治3)年、現在の廿日市市に生まれた洋画家です。当時は美術を学ぶ人の多くがヨーロッパに留学する中、千古はアメリカで美術を学びました。というのも、アメリカへ渡ったのは美術を学ぶつもりではなく、一旗揚げたかったからだといいますが、ちょっとしたことがきっかけになって美術学校へ通うようになりました。働きながらの勉強だったため時間は掛かったものの、やがて高度な技術を身につけた千古は一旦帰国し、続けてヨーロッパに向かいます。パリでは、黒田清輝をはじめ多くの画家、そして多くの人々と交友し、また各地を旅して見分を広めました。帰国後の千古は、宗教などから着想を得た説話的、寓意的な表現の作品も発表するなど、誕生して間もない日本の洋画に大きな役割を果たしました。残念ながら早くに他界し多くの作品は残していませんが、この展示では千古の留学中の素描から構想画の下絵まで幅広く紹介します。

また、千古が挿絵を描いた『新約物語』を糸口に、千古の幅広い交友が紡いだのであろうと思われる、さまざまな分野のパイオニアとのつながりも紹介します。



小林 千古《女子正面》1900～1901年頃

【第3展示室】小特集 丸木位里と船田玉樹－芸州美術協会の仲間

日本画家・丸木位里(1901-1995)と船田玉樹(1912-1991)。位里は妻・俊とともに描いた《原爆の図》で知られ、玉樹は精緻にして大胆な作風で近年、再評価されています。この展示室では、位里生誕120年、玉樹没後30年を記念して、当館の所蔵品を中心に両名の画業を紹介するものです。

中でも注目するのが、2人が画壇で活動を始めた時期に参加した芸州美術協会展です。1936(昭和11)年に広島県産業奨励館(現・原爆ドーム)で開催された同展には、位里と玉樹のほか、洋画家・鬚光(1907-1946)、野村守夫(1904-1979)、彫刻家・中川為延(1904-1967)の5人の作家の作品が並び、その質の高さと多くの来場者を得たことから「近來の大出来」といわれる成功を収めました。

この展覧会を運営したのは、地域密着型の美術雑誌『実現』を発行していた実業家・佐伯卓造です。佐伯は『実現』において郷土作家の近況や作品を紙面で紹介し、中央の美術動向を伝えたほか、同展のような作家支援を目的とした展覧会を企画し、戦前の広島文化の向上に多大なる影響を与えました。

位里と玉樹。同郷の二人が切磋琢磨しながらそれぞれの道を切り拓いた、その軌跡を御覧ください。



船田玉樹《日輪》1940年

【第4展示室】中央アジアの刺繍と衣装 #乙嫁たちの手仕事2

この展示室ではシルクロードの中心部、中央アジアの刺繍や民族衣装の世界を紹介します。

旧ソ連領中央アジアは、東に中国の新疆ウイグル自治区、西にカスピ海、南にインドやイラン、北にロシアが位置する地域で、1991年のソ連崩壊とともにウズベキスタンなど5つの国が独立しました。この地域は、刺繍や絨毯などの染織制作が盛んに行われ、ジュエリーや木工、陶芸やガラスなどの多彩な工芸が花開いた地でもあります。

当館は中央アジアの染織品と金工品、ジュエリーの大規模なコレクション約900件所蔵しており、国内最大にして国際的にも優れたコレクションとして知られています。

今回は、スザニと呼ばれる刺繍布、ウズベクとトルクメンの民族衣装、トルクメンのジュエリー、そして愛らしい刺繍袋を御覧いただけます。当館は124点の刺繍袋を所蔵しており、旧ソ連領中央アジアからアフガニスタン、パキスタンまで幾つもの民族による刺繍の違いを見ることができます。アフガニスタンの厳しい情勢が伝わってくる中、当地の人々の手仕事を通じて平安への思いを重ねたく思います。

19世紀の中央アジアを舞台にした『乙嫁語り』連載中の人気漫画家・森薫氏が当館のために描いたイラストとともに、漫画の舞台となった中央アジアの手仕事の風景をお楽しみください。



ウズベク人《女性用外衣(チャパン)》19世紀末

【関連イベント】

■ インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。(約15分間)

① 小特集 丸木位里と船田玉樹ー芸州美術協会の仲間

日時: 2021年10月12日(火) 17:00~

講師: 神内 有理(当館主任学芸員)



公式インスタグラム

② 中央アジアの刺繍と衣装 #乙嫁たちの手仕事2

日時: 2021年10月18日(月) 17:00~

講師: 福田 浩子(当館学芸課長)

③ 没後110年 小林千古ーアメリカで出会った夢

日時: 2021年11月30日(火) 17:00~

講師: 角田 新(当館主任学芸員)

■ リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式で紹介するトークイベントです。(ワイヤレスガイド使用)

日時: ① 2021年10月1日(金) 15:00~15:30

② 2021年12月10日(金) 15:00~15:45

場所: 2階 展示室 ①彫刻展示室・第1室 ②第2室・第3室・第4室

講師: ① 山下 寿水(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

②角田 新、神内 有理(当館主任学芸員)、福田 浩子(当館学芸課長)

定員: 8名

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】

※要入館券。会場入り口でお待ちください。

■スザニ刺繍ワークショップ「19世紀のスザニを研究する」

当館所蔵の19世紀のスザニの一部を、近似色の刺繍糸を用い、実寸大で再現刺繍します。

日時: 10月23日(土) 13:00~16:00、11月6日(土) 13:00~16:00、11月20日(土) 13:00~16:00

場所: オンライン(Zoom)

講師: 福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館学芸員)

定員: 8名程度

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】

※3回連続講座

※詳しくは別紙「スザニ刺繍ワークショップ参加者募集要項」を御覧ください。

■ オンライン対話型鑑賞

秋の所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなで話しながらか鑑賞します。

(機材や接続環境、Zoomの操作につきましては、各自で準備をお願いします。)

日時: ① 2021年10月30日(土) 14:00~

② 2021年11月13日(土) 14:00~

ナビゲーター: 森 万由子、岡地 智子(当館学芸員)

参加方法: オンライン(Zoom)

定員: 6名

※要事前申込

件名に「オンライン対話型鑑賞申込」、本文に「お名前」「電話番号」を入れて、以下のアドレス宛にお送りください。

iroeuma2@gmail.com

【「所蔵作品ミニガイド」無料配布】

「広島県立美術館 所蔵作品ミニガイド⑩『サルパドル・ダリ 超現実主義者の夢』、⑪『丸木位里 前衛の日本画家』を、来館者に無料配布します。

(部数限定)



【「ジュニア鑑賞ガイドブック」無料配布】

漫画のストーリーに沿って、当館の主要な作品や、美術館の楽しみ方を紹介する冊子です。(部数限定)



【アートマンガコーナーの新設】

美術をテーマとするマンガ(約115冊)のコーナーを図書室に新たに設けました。学芸員によるお勧めポイントや、関連書籍(図書室内の蔵書)を紹介しします。

場所: 当館1階 図書室



【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用は御遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。御了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで提出いただき、

1週間程度お時間を頂戴いたします。御了承ください。

◎御来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対策を行っています。御理解と御協力をお願いします。

■ 次に該当するお客様は、入館を御遠慮ください。

・発熱や軽度であっても咳、のどの痛みなどの症状がある方

■ 御協力をお願い

・マスクの正しい着用、手指のアルコール消毒、咳エチケット

・会話は控えめにし、特に大声での会話は行わないでください。

・人と人との接触を避けるため、できるだけ1mの距離を空けてください。

・来館者が多い場合は、入場制限を行う場合がございます。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 神内 有理

総務課 広報担当 一色 直香、弘津 かおる